

2018年度 事業報告

1. 総会、役員会、委員会の活動

① 総会の開催

5月21日（月）大阪市立社会福祉センター

② 役員会の開催

4月23日（月）、9月6日（木）、1月18日（金）、2月26日（火）

③ 施設長会の開催

3月15日（金）

④ 各種委員会の開催

◆ 企画委員会

事業等の企画・運営・調整

◆ 拡大企画委員会

事業等の企画・運営

◆ 研修委員会

各種分野別研究会等の計画・実施

① 地域の子育て支援研究会

② 地域の子ども研究会

③ 地域の障がい児・者研究会

④ セツルメント研究会

◆ 自然体験施設事業委員会

① びわこ青柳浜 セツルの家の運営と活動

ワークキャンプ活動（小・中・高生）

② びわこセツルの家改修工事

《 特別委員会 》

◆ バザー実行委員会

第20回自然体験施設応援バザーの企画・運営

◆ 全国研修会準備委員会

日地協主催 第23回全国地域福祉施設研修会名古屋大会

◆ 全国児童部会準備委員会

日地協主催 第17回全国地域福祉施設研修会児童部会

◆ NPO取得10周年事業委員会

NPO取得10周年記念事業（3月2日 ホテルアウイーナ）

## 2. 年間行事

5月21日	大阪市地域福祉施設協議会総会	大阪市社会福祉センター
5月27日	第33回 ともだちドッジボール大会	長 居 小
6月7~8日	第60回 大都市社会福祉施設協議会	福 岡 市
7~8月	びわこキャンプ場 セツルの家の利用	滋賀県大津市青柳浜
9月24日	第17回 全国地域福祉施設研修会児童部会	名 古 屋 市
11月11日	第20回 自然体験施設応援バザー	風の子保育園
11月18日	第48回 ともだちフェスティバル	長 居 公 園
1月18日	新年会	魚河岸料理 さこば
1月12日	第24回 こども将棋大会	育徳園早川記念ホール
2月23~24日	第23回 全国地域福祉施設研修会	東 京 都
3月2日	NPO法人取得10周年記念事業	ホテルアウィーナ

## 3. びわこキャンプ場セツルの家の運営

### ①年間事業報告

・ 5月15日	セツルに家利用打ち合わせ会	長居保育園
・ 7月1日	セツルの家ワークキャンプ	セツルの家
・ 7月3日	セツルの家開設準備	セツルの家
・ 7月~8月	セツルの家夏季利用	セツルの家
・ 8月19日	セツルの家消防訓練（今川学園こどもの家）	セツルの家
・ 9月11日	セツルの家夏季利用片付け	セツルの家
・ 9月15~16日	中高生キャンプ	セツルの家
・ 9月~3月	セツルの家夏季外利用	セツルの家
・ 9月29日	セツルの家台風被害工事打合せ	セツルの家
・ 3月14日	セツルの家浜整備工事打合せ	セツルの家



## 4. ワークキャンプ

### ①活動報告

○日時 7月1日(日)

○参加人数

小学6年生 21名	中高生 12名	大人 26名	合計 56名
-----------	---------	--------	--------

○作業内容

- ・ 台所 ・ 倉庫の整理 ・ 草刈り ・ 薪縛り ・ 浜掃除
- ・ 飛び込み台の整備 ・ 布団干し等
- ・ 午後からは、湖水浴等の交流を楽しむ。

今年度は大人と一緒にワークキャンプ活動を行いました。来年度以降の中高生活動に繋がるように小学校6年生にも声をかけました。高学年や中高生だからできるワークキャンプ活動。大人顔負けの作業振りで、とても頼りになりました。午後からは自然を体で、心で楽しんだ一日になりました。まだまだ遊び足りないといった感じの子ども達でしたが、本番は各施設や大地協での活動のお楽しみに…。皆の思い出の場所「セツルの家」がこれからも子ども達の居場所としてあり続けてほしいと思います。

詳しい活動内容は別紙の2018年度「地域の子ども研究会報告集」に記載しておりますので、そちらをご覧ください。

## 5. 自然体験施設応援バザー

### ①第20回 自然体験施設応援バザー

#### 『風の子 よっといでまつり』

- 日 程 : 2018年11月11日(日) 11:00~15:00
- 開催場所 : 風の子保育園・風の子ベビーホーム
- スタッフ : 150名(ボランティアを含む)
- 参加施設 : 愛染橋保育園・阿さひ保育園・育徳園保育所・今池子どもの家  
今川学園保育園・風の子保育園・四貫島友隣館・大国保育園  
特養いくとく・長居保育園・南港東保育園・やまと保育園  
望之門保育園・平和の子保育園・わかくさ保育園・北田辺保育園  
都島友の会  
\* 地域の子ども研究会ほか

#### ○収支報告

	収 入	支 出
金券	298,000	
バルーンアート材料費		2,000
イベント(かばうま)謝金		10,000
振込手数料		540
合計	298,000	12,540
純利益		285,460

※経費につきましては主催法人が負担いたしました。

#### ○まとめ

- ・ 「地域住民との交流、開催施設の活性化、法人職員間の交流」を目的とした。特に、施設を超えた法人職員間の連携・交流ができ、ひとつの成果となった。
- ・ 例年は模擬店や舞台イベントの他に、各施設より物品を集めてバザーを行ない収益を得ていたが、今回は行わず、子どもたちが楽しめるものを中心に企画した。
- ・ 風の子での開催ということで、大地協の他施設からは離れた場所になり、他施設からの利用者は少なかったが、風の子の利用者は多数参加した。模擬店も珍しいものが多く、満喫し、今後の大地協バザーにも参加したいとの声があった。

## 6. 職員の研修会の開催・参加

### ① 全国地域福祉施設研修会 第17回児童部会

- ◆ 日 程 2018年 9月 24日(月祝)
- ◆ 開催場所 名古屋(発達センターあつた)
- ◆ 主 催 日本地域福祉施設協議会  
東海地区地域福祉推進協議会

### ② 2018年度 第23回全国地域福祉施設研修会

- ◆ 日 程 2019年 2月 23日(土)～24日(日)
- ◆ 開催場所 東京都(国際ファッションセンター)
- ◆ 主 催 日本地域福祉施設協議会  
東京都城東地区地域福祉施設協議会

### ③ 全体研修会(地域福祉研修会)の実施

#### (1) 第1回 全体研修会

- ◆ 日 程 2018年 9月 21日(金)
- ◆ 時 間 19時～20時45分
- ◆ 会 場 育徳園幸分ホール
- ◆ テーマ 「大地協・セツルメント・地域福祉の歴史から学ぶ」
- ◆ 講 師 松村寛先生(社会福祉法人 水仙福社会 理事長)
- ◆ 参加者 45名

#### □講演の概要

松村寛先生は、1957年に大阪府社会福祉協議会に就職された。その後、社会福祉法人水仙福社会を設立し、さまざまな事業を発展させてこられた。長年、松村先生がセツルメント・地域福祉活動を実践されてきた中で1950～70年代の活動や社会状況を中心に講演いただいた。以下、講演の概要。

#### □セツルメントの歴史とその意義

明治の時代は、富国強兵のもと軍備をすすめる国民はほったらかし状態で貧困問題が深刻化していた。当時、石井十次を筆頭に民間社会福祉がセツルメント運動をすすめてきた。しかし、戦後、国からお金が出る(制度化)と制度に安住するという発想が広がり「セツルメントは終わった」と言われた。

しかし、大阪にはセツルメント運動の全国組織の中心があった。そして、大阪セツルメント研究協議会を結成し北市民館や民間社会福祉が中心となり行政の協力も得ながら「必要だと思うことはやっていく」という力と信念で活動を広げてきた。

#### □人格的交流とニーズによるつながり

松村先生は「人から受ける影響は大事である」と語られた。これこそ、現在の大地協が大切にしている(大切にしていかなければいけない)人と人のつながりと「ニーズを仕事の範囲とする制度の枠にとらわれすぎることのないボランティアリズム」と「ネットワーク」の重要性ではないだろうか。また、戦前のセツルメント活動家は「人間として」活動してい

た。そして、「すべては関係の中で発展した」「すぐれた活動をしている人と接触して学ぶ。それが生き方に帰ってくる。人格として接触すること」と語られた。

#### □福祉は何を見るのか

マイノリティの立ち位置に立つこと。その目線に立つことの重要性が語られた。水仙福祉会の後援会の存在意義について「お金を集めるのが後援会の意味ではなく、障がい者差別をなくすことが目的なんだよ」と当時の後援会長である岡村重雄先生が語られたことを紹介された。そして、相模原の障がい者施設での事件にも言及され、福祉に携わる人はこの事件から目を背けていることは問題なのではないかと問題提起もされた。

#### □地べたから行う地域福祉活動

民間の先駆性と理念という情熱や思いを持ち、今必要な課題ニーズを市民へ、社会へ、ソーシャルアクションとして行動を起こすことが大切である。そして、私たちは、福祉は今何をすべきかということを考えていかなければならない。

※以上の報告は、あくまでもご講演内容の概要なので、講演記録は地域福祉の諸問題に掲載を予定しています。

## 7. 各種分野別研究会

### I. 地域の子育て支援研究会

#### ①活動報告

##### (1) 第1回 研修会

- ◆ 日時 2018年 5月 8日 (金) 18:30~20:00
- ◆ テーマ “こんなときどうする?” ~食事と排泄~  
出席者がおらず中止となる。

##### (2) 地域の子ども研究会との合同研修会

- ◆ 日時 2018年 7月 19日 (木) 18:30~20:30
- ◆ テーマ “こんなときどうする?” ~遊びと環境~
- ◆ 参加者 8施設16名
- ◆ 内容 接続期の課題、不安について焦点をあてる。乳幼児期から学童期へ連続した支援について、アンケートをもとに意見交換をする。また、遊びと環境について各施設の取り組みなどの情報交換を行う。

#### <一部>遊びと環境について情報交換

課題として、子どもの絵本の扱い方が気になることや玩具の用意の仕方・適切な量はどれくらいか?が挙げられた。また、安全を確保すると遊びが規制され、十分に遊びが経験できない現状も挙げられた。それぞれの施設の環境構成を図で示し、遊びへの工夫を参考にすることができた。

学童期の子どもについては、幼児期に十分遊びを経験していないと自分で遊びを見つけられない傾向があるとのことで、改めて幼児期の遊びの大切さを感じた。

#### <二部>アンケート集計をもとに意見交換

地域の子ども研究会が担当し進めた。内容については、地域の子ども研究会の報告を参照下さい。

##### (3) 第2回 研修会

- ◆ 日時 2019年 2月 25日 (月) 14:30~16:30
- ◆ テーマ “どんなことしてる?” ~防災を考える~
- ◆ 参加者 7施設13名
- ◆ 内容 施設での災害に対する心構えと備えについて理解を深めた。地震のメカニズムを知り、マニュアルの整備と周知の徹底・訓練の重要性を感じた。また、災害発生時の情報収集及び予測能力が必要であることも学んだ。図上訓練による散歩ルートや遊び場所の安全確認では、普段からできる対策を考えることができた。昨年地震や台風災害体験について、グループワークを行い、その時の状況・困ったことなどを話しあった。課題が見つかり、アドバイスを受けることで課題の解決につながり、次回に生かせることが多くあった。訓練をしていても、いざという時の判断が難しい。今回の研修会で防災の大切さを改めて感じる事ができた。



## Ⅱ. 地域の子ども研究会

### ①年間テーマ

「地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す」

### ②活動報告

#### (1)合同行事の実施

○ともだちドッジボール大会

開催時期：2018年 5月 27日（日）

参加人数：10施設 小学生242名 大人141名

- ・ 昨年度同様、「交流」を意識し、施設の枠を超え、合同チームでの取り組みを行った。

○ともだちフェスティバル

開催時期：2018年 11月 18日（日）

参加人数：9施設 小学生172名

- ・ 各施設子どもと考えたブースを作る。各ブースを周り、イベントに参加して交流を図る。

#### (2)情報交換

- ・ 現場での悩みや疑問、活動内容を発信し、即実践に活かすことのできる情報交換を実施した。 様々な施設での取り組み、各指導員の視点、遊び等を参考にしながら、普段の子どもとの関りを見直す。

#### (3)研究活動

○テーマ：地域福祉施設としての防災・減災・災害後何ができるのか  
～災害後を見据えて、今できる事は何か～

大規模災害を子どもたちに“脅かす”のではなく“知識を得て伝え、共に考える”  
事の必要性を感じ、施設内で備える事・子ども達へ伝え共に考える事・地域へ発信する事は何か、更には災害後の私たちの役割は何なのかという視点から施設へのアンケート実施、目黒巻を用いてのシュミレーションなどを実施しました。

○テーマ：不登校の現状について考える。

各施設の不登校に関する事例を出し、指導員としてできる事は何かを深めていく。  
大学教授の資料や、講演会の参加などを行い、その内容を元に話し合う。身近にある不登校について、地域福祉施設の職員として何ができるのかを考えました。

○テーマ：小学生の身体・心の発達について

年齢ごとの「身体・運動面」「人間関係」「遊び」「思考・言語・価値観」「課題と配慮」の項目に分け、文献の姿と、実際に指導員が関わっている姿を踏まえて、今後の子どもの姿を考える際の指標となるように、発達の表の作成を行う。

#### (4)研修活動

○合同研修会 地域の子ども研究会・地域の子育て研究会

日 時 日時：2018年 7月 19日（木）

会 場 育徳園

- ・ アンケート集計結果を基に意見交換
- ・ 保育に関する各施設の取り組みなどの情報交換
- ・ 就学前、就学後アンケートを基に、様々な施設と意見交換を行い、悩みや困っている事を共有し、新たな視点を広げる事を目的として実施。

### Ⅲ. 地域の障がい児・者研究会

#### ①活動報告

第1・3・4・7・10回 育徳園、第2・5・6・8・9回 望之門保育園  
(いずれも午後7時30分～9時開催)

第1回	5/22	・研修会メンバーの確認と役割分担 ・今年度の活動計画
第2回	6/5	・事例検討(愛染橋保育園、望之門保育園)
第3回	7/10	・事例検討(長居子どもの家)
第4回	8/28	・支援者座談会の計画 ・事例検討(育徳園子どもの家)
第5回	9/18	・支援者座談会の計画 ・事例検討(キンダーハイム)
第6回	10/16	・支援者座談会準備会
<u>支援者座談会</u>	10/23	会 場：育徳園保育所 3階幸分ホール(参加者 27名) テーマ：「子どもたちから学んだエピソードを語る」 ～子どもの持つ力を見つけよう～
第7回	11/20	・支援者研修会のテーマについての検討
第8回	1/23	・支援者研修会準備会
<u>支援者研修会</u>	1/29	会 場：育徳園保育所 3階幸分ホール(参加者 83名) テーマ：「つまづきのある子どもの意欲の土壌を育むために 私たちができること」 講 師：伊丹 昌一氏(梅花女子大学教授)
第9回	2/26	・次年度の研究会について(年間テーマ、方向性)
第10回	3/12	・フリートーク「障がいとは何か」 ・2019年度の計画(日程等)

## IV. セツルメント研究会

### ①活動報告

#### (1)研究会の開催

- 今年度の研究会は、セツルメント精神の現代化（理論と実践）と新たな社会問題・地域課題の解決と予防と社会への発信と新たな協働という視点で研究・研修活動に取り組んだ。

第1回	6/20	地域福祉の諸問題への掲載原稿編集会議
第2回	6/26	セツルメント研究会 計画会議（地域福祉の心を問う）
第3回	6/27	地域福祉の諸問題掲載原稿編集会議
第4回	9/6	全体研修会企画（地域福祉の歴史から学ぶ）
第5回	9/21	大地協・セツルメント・地域福祉の歴史から学ぶ 講師 松村寛先生（水仙福祉会）
第6回	11/5	セツルメント研究会 映画上映会企画会議
第7回	12/2	映画自主上映会開催 「隣る人」刀川和也監督 トークイベント 刀川さん（監督）・稲塚さん（制作）
第8回	3/8	次年度計画 （セツルメントの実践と持続可能な共生社会を構想する）

会場：わかくさ保育園 時間：19時30分～21時ごろ

#### (2)研修会の開催

- 全体研修会（地域福祉研修会）の主催をおこなった。地域福祉施設の歴史から学び、地域福祉の未来を構想するための研修会を開催した。また、この研修会は、大地協の加盟施設職員の交流とつながりの場と位置づけて取り組んだ。

全体研修会	9/21	「大地協・セツルメント・地域福祉の歴史から学ぶ」 講師 松村寛先生（社会福祉法人 水仙福祉会 理事長） 会場 育徳園保育所 幸分ホール
-------	------	---

※研修会の詳細は、全体研修会の欄に記載

#### (3)映画自主上映会「隣る人」の開催

- ◆ 日程 2018年12月2日（日）
- ◆ 時間 10:00～ 映画上映会  
11:30～ トークイベント  
刀川和也（監督）×稲塚由美子（制作）×吉田正義（大地協）
- ◆ 会場 12:30～ 交流会  
在日韓国基督教会館（KCC会館）
- ◆ 講師 刀川和也監督、稲塚由美子氏
- ◆ 参加者 90名

## ◆ 映画の概要

### □映画が出来上がるまで

「隣る人」映画監督刀川さんは、フリーのジャーナリストとして、フィリピンや、「9・11」後にアメリカが攻めた頃の、アフガニスタンで空爆の被害者に取材する活動を始める。フィリピンでは、「ジャパゆきさん」と呼ばれる母親の子どもが、街で花を売っている所で出会い、その家族と関わり取材する。アフガニスタンでは、空爆を受けた被害者の取材中、過酷な環境の中でも逞しく働いている子どもたちと出会い、この2つの取材が刀川さんの原点となる。

2001年「大阪池田小学校事件」を契機に、「ゆたか」と言われている日本で起きたこの事件は一体何なんだろうという衝撃を受けた。この事件をきっかけに、子どもの問題・家族の問題について調べるようになる。子どもの問題を調べているときに、「光の子どもの家」施設長、芹沢さんと出会う。芹沢さんは、児童養護施設という、決して家族でも家庭でもありえない場で、家庭的な暮らしを実践しようとする「疑似家族」のような営みから、本当の家族・家庭といったことが逆に見えてくるのではないかと刀川さんに話された。刀川さんは是非「光の子どもの家」に行ってみたいと考え、8年間、延べ600時間の撮影に至り出来上がった映画が「隣る人」である。

### □児童養護施設「光の子どもの家」

児童養護施設は、様々な事情によって家族と生活が出来ない子どもが育つための施設である。この施設では、少しでも家庭的な家族的な環境を創り出すために、小舎制を取り入れ、一人の職員が5人以内の子どもを担当し、疑似母子関係を形成する仕組みを取っている。また、施設長の「職場で子どもたちは育たない」という信念のもと、職員は交代勤務ではなく、本当の家族として一緒に生活をして暮らしている。

### □映画を通して

児童養護施設の中で、子どもたちと職員の関りから、「人とひとの繋がりとは何か」「家族とは何か」「人として生きるとはどういうことか」「隣に添うとはどういうことか」を見ている人に問い掛ける。暮らしの営みを通して「かけがえのない」関係になっていく様子を描き、「何気ない日常」のなかにこそ、子どもたちにとって極上の宝物といえるようなものが一杯詰まっている場が見られる。

「かけがえのない」関係とは、「何があっても私はここにいるよ。あなたと出会えて良かったよ」という信号を発信し続け、子どもたちはその信号が途切れないことを確認し、途切れないことが確信になった時、子どもたちは安らぎと安心感を抱くことができる。「自分のことをちゃんと見てくれている」という確信が、確かな「手ざわり」のある貴重な時間であり、そんな毎日の人間的な温もりを持った関りが、子どもたちを生かしている。そんな、当たり前毎日の様子を丁寧に描いた映画である。

### □隣る人とは

「隣る人」の映画のタイトルは、「光の子どもの家」理事長の菅原哲夫さんが、子どもたちの傍に居続ける人のことを「隣る人」と呼んでいた事に由来する。子どもたちの傍に居続けることとは、一方的に断たれることのない関係を子どもたちが確信し、ゆるぎのないものとして内在化できたときに「かけがえのない人（隣る人）」の存在（信頼の基盤）を実感する。人は誰もひとりでは生きていけない。基盤となる「断ち切られることのない」「かけがえのない」関係を期限なしに保障することは、子どもたちが何歳になっても必要なことであり、自分を形作った幼かった子ども時代に、一緒に居てくれた人のもとに帰ってくるのも、自分を信じ待っている隣る人の存在があるからであろう。

#### (4)交流型研修

- ・ 大地協（セツルメント研究会）主催では法人の枠を超えた交流型研修会を開催できなかった。しかし、2018年度に愛染園大国保育園の職員が望之門保育園で実習と施設長・担当者からのレクチャーを受ける形で交流型研修を行った。これをモデルとして次年度の計画に持ち越す。

## 8. 職員厚生部

### ①ねらい

- ・ 施設間の職員交流を深める。

### ②活動報告

#### ○新年会

- ・ 2019年 1月 12日（金） 会場：魚河岸料理 ざこば
- ・ 40名（16施設、個人会員2名）参加

## 9. 広報宣伝部

### ①ねらい

- ・ 大地協の取り組みをホームページ及びメーリングリストを使い、活動に協力・賛同いただいている方々（加盟施設、個人会員、利用者等）に報告する。

### ②活動報告

- ・ メーリングリストを利用して、加盟施設及び個人会員に業務連絡や研修の案内を随時送信した。
- ・ ホームページに、各研究会の案内及び報告、バザーのお知らせ及び報告、日地協の全国研修の案内などを随時掲載した。
- ・ ホームページに、「地域福祉の諸問題 第2号」を掲載した。
- ・ 大地協の活動をよりオープンにするため、役員会及び企画委員会の報告を掲載した。